

命の大切さ

中高生へ

英語でも

命の大切さや救命救急の重要性を伝える小学校高学年から高校生向けの手作りの絵本を東京のボランティア団体が制作した。昨年に完成した絵本に英文を併記したバイリンガル版で、当時高校生の娘を突然亡くした福井市の川崎真弓さんの経験がストーリーの基になっている。川崎さんは「たくさんの人の思いが詰まった絵本。学校の教材などで活用してもらって子どもたちにぜひ伝えたい」と話す。

(堂下佳鈴)

タイトルは「LIFE'S RELAY BATON」のちのぼとん」。制作したのは、防火や防災をテーマにした朗読劇の公演などを全国で実施している「防災一人語り」

推進グループ（加藤雅代表）
最初に絵本化された「いのちのぼとん」は幼児や小学生向けに制作された。川崎さんの娘の沙織さんは高校一年生

の時、学校の体育祭のリレー

救命救急 福井の高校生題材



絵本「いのちのぼとん」の日本語版を手にする川崎さん（左）とバイリンガル版を手にする清水さん（右）＝福井市の寄合カフェ京町Y・Yで

併記した絵本完成

で次の走者にバトンを渡した後、突然倒れて亡くなった。絵本は当時の状況や、その後川崎さんが自動体外式除細動器（AED）や心肺蘇生法（CPR）の普及などに取り組んでいることを題材に、易しい言葉でつづっている。

バイリンガル版は、英文を併記することで中高生にも関心を持ってもらおうと制作し、沙織さんの命日である九月十日に合わせて発行した。表紙には漫画家のアシスタントになることが夢だった沙織さんが、中学生の時に描いた絵を掲載している。

本文の絵は、公募に応じた佐々木曜さん（神奈川県）が描いた。佐々木さんは沙織さんと同年代で、難病のため自宅療養中だが「沙織さんの悲しい死がみんなの生につながる」との思いで制作したという。英訳は福井市在住の角

田貴美枝さん（米国籍）が担当した。

バイリンガル版は、子どもたちに手に取って読んでもらえるように、県内外の学校や図書館などに寄贈した。絵本を読んだあわら市芦原中学校三年の畑中陽菜さん（18）は「大切なのは次へとつなぐ勇氣を持ち生きることだと考えさせられた」と感想を寄せた。

川崎さんの経験を基にした朗読劇は昨年、福井市内で上演されている。会場の一つとなった寄合カフェ京町Y・Y（順化二）にもバイリンガル版が寄贈され、来店者に自由に読んでもらっている。経営者の清水康江さんは「作り手の思いがストレートに伝わってくる絵本。川崎さんの体験を通して、みんなが助け合う気持ちがあふれるように広げたい」と話す。

絵本は「防災一人語り」推進グループのホームページ（「文化と防災の合体」で検索）からも閲覧できる。